

## (2) 良質小麦安定生産技術講習会 －道産小麦の生産は講習会の成果－

小麦を担当して、15年以上の歳月が流れたことになりましたが、北海道開拓とともに導入された経緯から見れば、わずかな歴史しか見ていないことになるでしょう。それでも、主産地のホクレン北見支所を含め生産地を3か所、流通の面においては大阪支店、そして、本所麦類課を経て、現在勤務している北海道米麦改良協会までを振り返れば、私なりに感慨深いものがあります。

ここ数年、拙いながらも司会進行を担当させていただいている『良質小麦安定生産技術講習会』(主催／北海道・ホクレン・地区米麦改良協会(小麦生産地9か所)・北海道米麦改良協会の4団体)は、需要動向に即した良質小麦を安定的に生産・供給することに主眼を置き、道内各地の小麦生産者のみなさんへ、技術普及を願って開催しています。

講習会の内容としては、夏期は適期刈り取りや乾燥調整など、冬期では栽培の基本技術の励行、病虫害の防除法、土壌及び施肥管理などが主です。各講習会では、農業試験場等の専門技術員、ホクレン麦類課担当者をはじめ、製粉業界や固有用途業界(醤油・味噌等)のスペシャリストのみなさんに、テキストの作成から指導・助言を含め、講演の依頼にもご協力いただいております。

こうした多くの方々のお力添えで、開催している講習会の成果として、真っ先に挙げられるのは何と言っても、年々小麦栽培に関心が高まって、生産者の方々の参加が増加傾向にあることです。5年ほど前と比べますと、およそ30%以上は受講者が増えていると思います。

最近の例で言えば、昨年度の十勝管内1か所の会場で、参加者300名を超える実績を残した会場がありました。これは平成6年に奨励品種となり、今や北海道小麦作付全体の、大半を占める「ホクシン」の栽培技術が確立されていなかったことと、平成12年産から開始される民間流通では、品質によって手取り価格が上下するため、より信頼される良質小麦を目指した安定生産技術を、身につけていなくてはという現れと思われそうですが、そうした一般

論的な受け止め方だけでは片づけられないほど、各地区の講習会では、みなさんの熱意がひしひしと伝わってくるのです。

ひと昔前の頃を振り返ってみれば、実のところ苦い思い出もあるのです。あれは、私がH地区の担当で冬期講習会を企画立案し、管内の市町村地区協会や農協等に案内したところ、およそ100名が参加するとのことで、その人数分の席を用意しましたものの、最終的に受講したのはわずか十数名でした。

講習会終了後、当時のN課長から「次回からは資料を送るから、講師もお前が担当しろ！」という厳しい言葉を浴び、ショックを受けたものでした。

僥越ながら、もう一つ成果を挙げるならば、参加者の方々の受講態度が非常に積極的で前向きになったことです。先に述べましたように、ここ数年の受講者数はますます増え、しかも、どの地区の会場でも、講師も受講者も共に熱意を帯びてきています。たとえば、講師はただ課題についての語りっぱなしというのではなく、S講師の場合では、突然、演壇から『は種はいつしたの？』『融雪促進はいつ実施したの？』というように問いかけるものですから、受講者もウカウカ寝てはいられません。講習時間は、地区によって多少の違いはありますが、概ね午後から3時間程度。連日異なる地区で開催することが多く、開催地によっては、当日のうちに事務所に戻り、翌日の準備をするというケースもあるのです。これも、実際にあったことですが、会場からの質問や助言を求める声が幾つもかかり、予定時間を大幅に超えてしまい、帰りの発車時刻が迫っているのを、ハラハラしながら進行を見守ったこともたびたびありました。こうした思い出を振り返りますと、受講者が十数人だったことや、予定人数を上回って、あわてて椅子を追加することもあったことなどが、どれも昨日の事のように思われてきます。

また、開催側といたしまして、講習会の成果の表れとして最も喜ぶべきことは、最近、顕著に見られる一等麦出荷比率のアップや、小麦の品質向上が挙げられます。実需先の方々から、蛋白含量が高くて、粉にした際の色調のくすみ等が指摘されたりもしましたが、昨今ではその数値も安定し、品質が認められてきています。このことは、「ホクシン」という良品種のおかげでもありますが、やはり、実際に栽培する生産者のたゆまぬ努力や、それらを

支える普及センターや、各農協の調製技術といったバックアップなどがあるからこそと思います。

今後も、小麦品質の安定や向上は、民間流通時代に向けて重要な課題になってきますから、主産地はもちろんのこと、これから作付を計画している生産者の方々のためにも、ますます講習会の内容を濃くし、充実させていかななくてはと考えておりますので、今後とも多数の受講をよろしくお願い申し上げます。

<村木 淳司>



全道主産地で行われる講習会